

運営費交付金に反映する指標の判定（案）
（公立大学法人静岡文化芸術大学）

●第3期中期計画評価指標達成状況（令和7年度）

区 分		定量			定性
		指標数	達成	未達成	
教育研究費 （学生）	教 育	12（3）	8（2）	4（1）	7
	グローバル	5（2）	3（1）	2（1）	1
教育研究費 （教員）	研 究	6（1）	3（0）	3（1）	0
	地域貢献	9（0）	6（0）	3（0）	0
管理運営費	法人経営ほか	19（1）	17（0）	2（1）	3
合計		51（7）	37（3）	14（4）	11

※（ ）は困難指標の数（内数）

（参考）令和6年度実績

区 分		指標数	定量			定性
			達成	未達成	「－」※	
教育研究費 （学 生）	教 育	12（3）	4（0）	5（3）	3	7
	グローバル	5（2）	4（1）	1（1）	0	1
教育研究費 （教 員）	研 究	6（1）	3（1）	3（0）	0	0
	地域貢献	9（0）	6（0）	3（0）	0	0
管理運営費	法人経営ほか	19（1）	16（1）	2（0）	1	3
合計		51（7）	33（3）	14（4）	4	11

※（ ）は困難指標の数（内数）

※令和6年度は、社会情勢等考慮し4指標を判定対象外「－」とした。

理由は、令和6年度に第3期中期計画を変更し、新たに指標を設定したことにより、令和6年度には目標値の設定がなかったこと及び物価高騰の影響を考慮したため。

<公立大学法人静岡文化芸術大学の令和7年度評価指標一覧>

【達成】37指標

【達成】

- ・成果指標（困難）が達成された場合：◎（数値化 2点）
- ・成果指標（困難）の達成度が90%以上100%未満の場合：○（数値化 1点）
- ・成果指標（標準）及び活動指標が達成された場合：○（数値化 1点）

項目	計画 No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	成果/活動	判定基準	R7年度実績値	達成状況	成果指標結果
教育	3	志願倍率（該当年度内に実施した学部一般選抜（前期・後期））	過去3年平均以上／毎年【困難】 （R4～R6平均値：5.1倍）	教育の充実の成果として確認	成果	困難	5.4倍	○	◎
	9	【新規】 全授業科目においてアクティブラーニングの手法を取り入れた授業の割合 ※アクティブラーニング（学生の能動的な活動を取り入れた授業）	R7年度：60% R8年度：65% R9年度：70%	アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、授業を活性化させ、本学の強みである実践的な教育を推進	活動	標準	61.70%	○	○
	10	【新規】 全授業科目におけるLMS（SUAC manaba）の利用率	R7年度：40% R8年度：50% R9年度：60%	LMS（SUAC manaba）の活用を進め、授業の質や効率性を向上	活動	標準	51.00%	○	○
	24	FD研修参加率	75%以上／毎年	教員研修の充実を通じて、教育の質を向上	活動	標準	88%	○	○
	27	英語の学修成果（在籍期間中のTOEICスコア）	800点以上を取得する学生数26人以上	外国語の学修成果を客観的に検証し、教育活動を改善	成果	標準	46人	○	○
	27	英語の学修成果（在籍期間中のTOEICスコア）	700点以上を取得する学生数64人以上	外国語の学修成果を客観的に検証し、教育活動を改善	成果	標準	82人	○	○
	27	英語の学修成果（在籍期間中のTOEICスコア）	600点以上を取得する学生数167人以上	外国語の学修成果を客観的に検証し、教育活動を改善	成果	標準	193人	○	○
	41	就職率	100%以上／毎年【困難】	キャリア支援の成果として確認	成果	困難	98.0%	○	○

<公立大学法人静岡文化芸術大学の令和7年度評価指標一覧>

【達成】37指標

【達成】

- 成果指標（困難）が達成された場合：◎（数値化 2点）
- 成果指標（困難）の達成度が90%以上100%未満の場合：○（数値化 1点）
- 成果指標（標準）及び活動指標が達成された場合：○（数値化 1点）

項目	計画No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	成果/活動	判定基準	R7年度実績値	達成状況	成果指標結果
グ ロ ー バ ル 化	35	受入れ留学生ガイダンス実施回数	6回以上／毎年	ガイダンスを実施し、留学生への確実なフォローを実施	活動	標準	8回	○	○
	66	派遣留学生数	長期留学 22人／毎年	グローバル教育を推進し、留学や研修の機会を増やす。	成果	標準	29人	○	○
	67	海外の教育研究機関等との共同事業の実施	第3期累計20件【困難】 （1年あたり3～4件）	海外の大学等との交流の活性化	成果	困難	R7年度：9件 （R4～R7累計：20件）	○	◎
研 究	44	論文数、研究作品数（機関リポジトリ登録数）	対前年増／毎年 対前年増（R6年度：60件）	研究成果として、論文や研究作品・設計等を把握するため、リポジトリ新規登録数を確認	活動	標準	63件	○	○
	49	【新規】研究成果発表会（オンライン含む）の閲覧者数	過去3年平均以上／毎年 （R4－6平均値：111人）	外部に研究成果を発信し、意見を聞く「研究成果発表会」の閲覧者を増加させることで、研究活動を活性化	活動	標準	201人	○	○
	49	【新規】教員特別研究報告書に対する、審査委員によるフィードバック率	100％／毎年	研究の成果に対して評価者が意見を付し、研究代表者にフィードバックすることで研究の質を向上	活動	標準	100%	○	○
4 地 域 貢 献	41	県内就職率	過去3年平均以上／毎年 （R4－6平均値：34.6％）	地域への人材輩出の成果として確認 ※デザイン学部就職先としての受皿が県内に不足	成果	標準	38.3%	○	○
	43	社会人学生数（正規の学生及び科目等履修生）	過去3年平均以上 （R4－6平均値：3人）	社会人学生数を増やし、リカレント教育における地域貢献の役割を果たす。	成果	標準	3人	○	○
	54	公開講座等の参加者数	過去3年平均以上／毎年 （R4－6平均値：3,849人）	開かれた大学として、教育研究成果を地域へ還元しているか確認	成果	標準	3,898人	○	○
	55	地域連携演習等取組者数	第2期平均以上／毎年 （第2期平均：195人）	学生が地域と連携し地域課題を解決する「地域連携実践演習」の取組者数（学生）を確認	活動	標準	280人	○	○
	60	【新規】大学間での単位互換制度を利用した学生数	10名以上/毎年	他大学との連携に関する指標として設定	活動	標準	15人	○	○
	62	【新規】国際交流センターを中心とした、共生社会の実現につながる、学内外に開かれた交流事業の実施	年2回以上	国際交流センターを中心に、共生社会の実現に向けた活動を恒常的に実施	活動	標準	2回	○	○

<公立大学法人静岡文化芸術大学の令和7年度評価指標一覧> 【達成】37指標

- 【達成】
- ・成果指標（困難）が達成された場合：◎（数値化 2点）
 - ・成果指標（困難）の達成度が90%以上100%未満の場合：○（数値化 1点）
 - ・成果指標（標準）及び活動指標が達成された場合：○（数値化 1点）

項目	計画No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	成果/活動	判定基準	R7年度実績値	達成状況	成果指標結果
法人経営	68	【新規】 役員会・経営審議会において、 学外委員から出た法人経営に関 する意見への対応または回答す る率	100%/毎年	ガバナンス確保のため、学外委員からの意見を取り入れながら法人を運営	活動	標準	100%	○	○
	73	職員（出産した本人を除く）の 育児休業等取得率	60%/毎年	職場と家庭の両立できる働きやすい環境づくりを目指す	活動	標準	100%	○	○
	73	育児休業以外の育児、監護、介 護に関する諸制度の利用者	第3期累計30人以上 (1年あたり5人)	職場と家庭の両立できる働きやすい環境づくりを目指す	活動	標準	19人 (R4～R7累計：55名)	○	○
	73	職員の有給休暇取得日数	10日以上/毎年	働き方改革の取組の観点から設定	活動	標準	12.75日	○	○
	74	時間外勤務時間数（総時間数）	対前年減/毎年 (R6：13,335時間)	働き方改革の取組の観点から設定	成果	標準	11,895時間	○	○
	76	【新規】 教職員向けのコンプライアンス 研修受講率	100%/毎年	コンプライアンス研修を実施し、教職員の法令遵守意識を醸成する。	活動	標準	100%	○	○
	80-1	管理的経費の効率化	一般管理費（義務的経費除く）第2期平均以下/毎年 (第2期平均:203,524千円)	経営の効率化による自律的な経営の促進	成果	標準	201,381千円	○	○
自己点検	84	【新規】 「SUAC理解・基礎データ集」を 更新・大学HPへ掲載	1回/毎年	大学の運営における透明性と説明責任が確保されていることを確認	活動	標準	1回	○	○
	85	【新規】 市記者クラブへの情報提供（プ レスリリース）の件数	33件以上/毎年	様々な手法での広報活動が実施されているかを測定	活動	標準	36件	○	○
	85	【新規】 公式SNS（X）のポスト投稿件数	300件以上/毎年	85-1と同じ	活動	標準	352件	○	○

<公立大学法人静岡文化芸術大学の令和7年度評価指標一覧> 【達成】37指標

- ・【達成】
- ・成果指標（困難）が達成された場合：◎（数値化 2点）
- ・成果指標（困難）の達成度が90%以上100%未満の場合：○（数値化 1点）
- ・成果指標（標準）及び活動指標が達成された場合：○（数値化 1点）

項目	計画No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	成果/活動	判定基準	R7年度実績値	達成状況	成果指標結果
その他	87	【新規】 工房機械講習会の実施	2回／毎年	学内での安全確保のため工房機械講習会を実施	活動	標準	2回	○	○
	88	【新規】 防災訓練の実施	1回／毎年	防災訓練を実施し、危機管理体制を強化	活動	標準	1回	○	○
	88	【新規】 多様なテーマに関する教職員や 学生向けの啓発動画の作成・発信	新規動画1本以上／毎年	本学の施設状況に即した動画を活用し、学内全体の危機管理意識を高める。	活動	標準	1本	○	○
	90	【新規】 教職員向けの「情報セキュリティ等に関する研修」の参加率	100%以上／毎年	情報セキュリティに関する教職員の意識を高めるために研修を実施	活動	標準	100%	○	○
	91	【新規】 ハラスメント事案新規発生件数 （ハラスメント調査委員会での認定件数）	ゼロ／毎年	全学的にハラスメント根絶に取り組み、成果を確認	成果	標準	0件	○	○
	91	【新規】 教職員対象ハラスメント防止研修の受講率	100%／毎年	受講率100%を指標とし、教職員全体がハラスメント防止意識を持つ。	活動	標準	100%	○	○
	92	【新規】 フェアトレード大学やSDGsに関する取組（学外への発信）件数	過去3年平均以上／毎年 （R4－6平均値：11件）	持続可能な社会の実現につながる本学の取組件数を設定	成果	標準	21件	○	○

<公立大学法人静岡文化芸術大学の令和7年度評価指標一覧> 【未達成】14指標

項目	計画 No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	成果/活動	判定基準	R7年度実績値	達成状況	成果指標結果
教育	4	大学院における入学定員の充足状況	100%/毎年【困難】	未充足傾向が恒常化し課題	成果	困難	60%	×	●
	27	中国語の学修成果（年度毎のHSK取得）	3級以上を取得する学生数42人以上	外国語の学修成果を客観的に検証し、教育活動を改善	成果	標準	17人 (18人受験)	×	●
	33	【新規】 学生生活調査の回答率	60%以上/毎年	学生の生活面の諸状況を把握するための調査を行い、安定した回答率を確保	活動	標準	25.80%	×	●
	41	大学主催の就職支援事業の参加率	45%以上/毎年	学生への就職支援事業を行い、就職率を底上げ	活動	標準	25.5%	×	●
グローバル 化	66	受入れ留学生数	40人/毎年	グローバル教育を推進し、留学や研修の機会を増やす。	成果	困難	20人	×	●
	66	派遣留学生数	短期留学50人/毎年（語学研修含む）	グローバル教育を推進し、日本人学生が多様な人々と交流する機会を増やすため、受入留学生を増やす。	成果	標準	43人	×	●
研究	48	科学研究費補助金の教員の申請率	第3期最終年度30%以上 (毎年度1ポイント増、R7年度目標：28%)	科学研究費補助金の教員の申請率を上げ、外部資金の獲得件数、獲得金額を増加	活動	標準	27.80%	×	●
	48	外部資金（科研費等）の獲得件数	過去3年平均以上（国財団助成含む）/毎年 (R4-6平均値：59件)	科研費、共同研究、受託研究、受託事業、財団等助成金、研究奨励寄附金等の外部資金による研究状況を確認	成果	標準	45件	×	●
	48	外部資金（科研費等）の獲得金額	過去3年平均以上（国財団助成含む）/毎年【困難】 (R4-6平均値：41,132千円)	科研費、共同研究、受託研究、受託事業、財団等助成金、研究奨励寄附金等の外部資金による研究状況を確認	成果	困難	31,204千円	×	●
地域 貢献	46	受託事業、受託研究、共同研究の受入件数	過去3年平均以上/毎年 (R4-6平均値：16件)	地域社会及び産業の活性化に貢献	成果	標準	8件	×	●
	58	【新規】 自治体等の委員、講師、審査員等への 就任件数	過去3年平均以上/毎年 (R4-6平均値：427件)	地域との連携に関する指標として設定	成果	標準	389件	×	●
	59	【新規】 静岡県の実施する各種事業に協力した 件数	過去3年平均以上/毎年 (R4-6平均値：71件)	県との連携に関する指標として設定	成果	標準	60件	×	●
法人経営	79	【新規】 静岡文化芸術大学基金の寄附金額	300万円以上/毎年【困難】	大学基金について積極的に広報し、自己収入を増加	成果	困難	264万円	×	●
その他	86	【新規】 学生定期健康診断受診率	第2期中期目標期間の水準を確保 (第2期中期目標期間水準：94%)	健康診断受診率について高水準を維持	活動	標準	93%	×	●

< 公立大学法人静岡文化芸術大学の令和7年度評価指標一覧> 「定性」指標（11指標）

項目	計画 No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	R7年度の実施状況
教育	1	育成する人材【学士課程】	【新規】 R7年度：ディプロマ・ポリシーに示された育成人材を踏まえた入試が実施され、カリキュラムが運用されているか、教学IR委員会で検証する。 R8年度：R7年度の検証結果をまとめ、学部・研究科で共有し、対応について協議する。 R9年度：R8年度の協議結果を踏まえ、県の定める中期目標と大学の方針の調整を行ったうえで、第4期中期計画における「育成する人材」に関する項目を策定する。	ディプロマ・ポリシーに基づいた大学運営が行われているか、教学IR委員会を中心に組織的に検証し、次期中期計画策定につなげる。	・教学IR委員会の主導で、R7年度卒業生を対象とした卒業時アンケートを実施し、3ポリシー間の一貫性を検証するためのデータを収集・分析した。 ・教学IR委員会から、ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラムの運用状況をわかりやすく体系的に明示するため、各学科にカリキュラムマップを踏まえたカリキュラム・ツリーの作成を依頼した。 ・教学IR委員会の主導の下、両研究科では、R7年度より学士課程で新カリキュラムが開始されたことにより4年後に向けて接続する修士課程の入試とカリキュラムの見直しを始めた。また、3ポリシーの一貫性と明晰性についても各研究科教務委員会で検討と確認を行った。
	2	育成する人材【修士課程】			

< 公立大学法人静岡文化芸術大学の令和7年度評価指標一覧 > 「定性」指標（11指標）

項目	計画 No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	R7年度の取組状況
教育	12-1	教育内容の質の向上【両学部共通】	【新規】 ○両学部共通 R7年度：1年生への新カリキュラムの提供を開始。1年次配当科目について授業アンケート等により評価する。 R8年度：新カリキュラムを年次進行により2年生まで提供。全学科目区分のカリキュラムの妥当性について評価する。 R9年度：各学科において、必修科目、選択科目、教養科目、専門科目などのバランスを考慮した履修モデルの作成を完了する。完成した履修モデルを活用し、学生に対する各学科の履修指導において、教育課程全体の構造を俯瞰し、体系的な履修を促す。また、各学科の履修モデルと学生の実際の履修状況を照合し、その結果をカリキュラムおよび学習成果の点検・評価に活用する。	新カリキュラム（R7～）を円滑に実施しながら、全体的な視点、学部ごとの視点の双方から適切に運用されているかを検証	前期および後期の学期末に実施した授業アンケートの結果に基づき、教学IR委員会で、新カリキュラムの開講科目について評価を行った。その結果、1年生が新カリキュラムの開講科目の授業に意欲的に取り組んでおり、知的好奇心が湧いたと感じていたこと、シラバスに記載されている学修到達目標に到達できたという実感をもっていることが確かめられた。新カリキュラムで新設した全学科目のキャリア形成区分科目においても、同様の傾向が確かめられた。一方、授業の難易度の評価においては、学部・学科の専門科目よりも、全学科目のほうが難しいと評価される傾向にあることがわかった。この点については、次年度にかけて精査し、問題点があれば解消していく。これらの結果はR8年4月度の教育研究審議会で報告し、各学科に共有する。
	12-2	教育内容の質の向上【文化政策学部】	【新規】 ○文化政策学部 R7年度：新カリキュラムが適用される新入学生に対して、ガイダンス等においてオプション・スタディーズの周知を行う。 R8年度：各学科ごとにオプション・スタディーズに関するガイダンス及び履修指導を実施し、2年次後期に履修受付を行う。 R9年度：オプション・スタディーズの開講。また、履修状況や履修生の動向について確認・検証を行う。結果を踏まえ、制度の運用方法や、講義内容の見直しを行う。		4月上旬の新入生オリエンテーションにおいて、文化政策学部の新入生に全員にオプション・スタディーズに関する資料を配布、さらに学部長が直接、オプション・スタディーズのしくみ、内容に関する説明を行った。
	12-3	教育内容の質の向上【デザイン学部】	【新規】 ○デザイン学部 R7年度：専門横断演習について、授業計画及び評価方法をワーキンググループで検討する。 R8年度：専門横断演習について、ワーキンググループと担当教員でテーマを決定し、授業計画を策定する。 R9年度：専門横断演習の開講、授業成果の学内外への発表を通じて、授業到達目標を検証する。検証結果を踏まえ、演習内容を改善・充実させる。		・課題内容を複数設定し、それらの授業計画及び授業運営のための担当教員数について、科目概要に従い議論を行い、シラバスのたたき案を作成し課題点の洗い出しを行った。 ・グループワークの評価方法の課題点を抽出、特に、プロセス評価方法の検討を行い、学生同士のピアレビューや自己評価の取り扱いについて議論した。 ・「学生視点で見て魅力的な（他の授業では体験できない、横断を実感できる）課題プログラム」をテーマに、WGメンバーがそれぞれ案を持ち寄り検討し、当該科目ならではのテーマ及び課題設定のための条件を抽出した。

< 公立大学法人静岡文化芸術大学の令和7年度評価指標一覧 > 「定性」指標（11指標）

項目	計画No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	R7年度の取組状況
教育	15	教育内容の充実【修士課程】	【新規】 R7年度：修士生に対して調査を実施し、現在の仕事と本学での学びの関連性、本学のカリキュラム、修士論文や作品制作の指導、成績評価等についての意見を収集し、両研究科の強みや問題点を明らかにする。 R8年度：R7年度の調査結果をもとに修士課程のカリキュラム、授業内容、成績評価方法の見直しを行う。 R9年度：R8年度の活動内容を踏まえ、第4期中期計画期間における研究科の在り方について学内協議及び同計画案の策定を行う。	修士生の活動状況を把握し、修士課程の見直しや充実化につなげる。	・R8年1月、過去5年間の両研究科の修士生を対象にオンラインアンケート調査を実施し、修士後の進路、現在の職務内容、本学での学びとの関連、カリキュラムや研究指導に関する意見等を把握した。結果、修士生の多くが民間企業等で専門性を活かして活動しており、修士論文や修士制作が現在の業務や活動に活かされていることを確認した。
	29	教育研究組織の見直し	【新規】 R7年度：地域連携センター、文化・芸術研究センター、国際交流センターの事業及び機能の有機的な連携・協働の検証の方法について協議する。 R8年度：上記3センターの機能統合・グローバルデザイン研究所（仮称）移行に向けた課題の整理を行う。 R9年度：グローバルデザイン研究所（仮称）移行に向けた計画を策定する。	遠州学林構想で重要な位置付けとなるグローバルデザイン研究所（仮称）設置に向けて、計画的に準備を推進	・「遠州学林構想（答申）」に示された「グローバルデザイン研究所（仮称）」の実現可能性については、R7年1月からR8年3月まで遠州学林設置検討専門部会にて検討を行い、地域連携センター、文化・芸術研究センター、国際交流センターの将来的な統合を見据えた各センターの機能の確認、課題を整理し、当面は現行の3センター体制を維持することとした。
グローバル化	63	グローバル教育の推進	【新規】 ○国際交流センターを中心とした、全学的なグローバル教育の推進 R7年度：留学から帰国した本学学生と海外からの留学生の交流活動を各学期に実施する。地域の特性を生かしたグローバル教育を推進するため、国際交流センターと地域連携センター等の協働事業案を策定する。 R8年度：R7年度に活動に加え、複数のセンターが協働し、グローバル教育を推進する事業を実施する。 R9年度：R8年度に実施した事業の結果を検証した上で、第4期中期計画を見据えた全学的なグローバル教育推進体制を整備する。	国際交流センターを中心としたグローバル教育を全学的に推進するために、他のセンターと連携	今年度入学した正規留学生と交換留学生の交流機会として、自己紹介と「興味がある日本文化」についてディスカッションを行う機会を設けた。また、本学の「茶道部」によるお茶会に参加し、茶道文化の一部に触れた。 後期新たに在籍した留学生には10月中旬に学長、国際交流センター長も出席する歓迎会を行い、3名の留学生と留学から帰ってきた本学学生を含む学生同士の交流を図った。 地域の特性を生かしたグローバル教育推進のための両センターの協働事業として「SUACブラジルDAY（後期）」を開催した。 また、事業案としては来年度に行う「フェアトレード大学10周年記念事業」の開催について協議した。 図書館・情報センターとの共同事業として「SUACブラジルWEEK（前期）」の開催中にブラジル関連書籍の特別展示を行った。また、「私の留学記・先輩たちのリアル展」において本学学生の留学記の紹介のほか、留学生の推薦図書について紹介した。

< 公立大学法人静岡文化芸術大学の令和7年度評価指標一覧 > 「定性」指標（11指標）

項目	計画No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	R7年度の実施状況
法人経営	80-2	財務内容の改善	R7年度：経営状況を分析し、本学の財務構造の在り方について見直しを実施する。 R8年度：R7年度の見直しを踏まえた改善施策を立案し、実行する。 R9年度：R7年度、R8年度の実施結果を踏まえた上で、第4期中期計画を策定する。	現状分析を行った上で、大学経営の安定化に向けた全学的な取組を推進し、次期中期計画を策定	人件費や光熱水費の増加が課題となる中、情報端末必須化（BYOD）の導入により学内の端末台数を見直し、情報機器等の設備経費を40,000千円削減することで、県のサマーレビューに優先して対応した。
	81	第3期中期保全計画による大規模改修工事の執行状況	【新規】 ○第3期中期計画中の施設整備更新計画の確実な執行 R7年度：照明設備（LED）更新、個別空調更新 R8年度：照明設備（LED）更新、個別空調更新、劣化診断の実施 R9年度：照明設備（LED）更新、個別空調更新、劣化診断を元に次期更新計画を策定	施設の長寿命化の観点から、コストも意識した計画的な施設整備を実施	照明設備（LED）更新について、自由創造工房、工作室、総合組立アトリエの照明器具の更新を行い、LED化した。 また、空調工事について、北棟4階情報処理演習室等、北棟1階コンピューター室の空調設備を更新した。
自己点検・評価及び情報の提供	83	自己点検評価と外部評価の活用	【新規】 R7年度：令和4年受審の認証評価結果における意見への対応（100%実施） R8年度：自己点検評価委員会にて、R10年度の認証評価受審のための点検ポートフォリオ作成計画策定 R9年度：R10年度の認証評価のための点検ポートフォリオ作成、学内決定 R7～9年度共通：（年度計画策定・年度評価廃止に伴い）自己点検評価委員会において、外部委員とともに中期計画の進捗及び評価指標達成状況の確認を行う。	適正なガバナンス確保のため、第3者機関による認証評価を適切に受審し、結果・意見への対応を確実に実施。年度計画策定・年度評価廃止に伴い、学内の自己点検評価体制を強化	R4年度に受審した認証評価機関による評価結果を受け、改善を要する点4項目及び今後の進展が望まれる点4項目について、それぞれ改善策を実施した。 （例） 両研究科の新制度に基づく「社会人特別選抜」と文化政策研究科の「国際協力経験者特別選抜」の募集を開始した。 シラバスチェックの結果を踏まえ、シラバス作成マニュアルを改定した。 新しい項目による授業アンケートを実施し、結果について教学IR委員会で集計し、教育研究審議会で報告するとともに両学部教授会で共有した。